

平成21年6月15日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2005～2008

課題番号：17201051

研究課題名（和文） アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置

研究課題名（英文） Globalization of the Reproductive Sphere & Gender Reconfiguration in Asia

研究代表者

伊藤 るり (ITO RURI)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：80184703

研究成果の概要：本研究では、東・東南アジアにおける移住家事・介護労働者や結婚移民の送り出しと受け入れの実態と政策、また各社会におけるジェンダー再配置との関係把握を試み、①「国際移動の女性化」の背景にある再生産労働の国際移転とその諸パターン、および日本の事例の検討、②移住労働の回路（サーキット）と国家の関係、③家族／世帯の越境的再生産と国家との関係、④女性移住者自身の再生産と権利保障をめぐる課題群等を検討し、再生産領域のグローバル化の現状に関する一定の知見を得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	8,700,000	2,610,000	11,310,000
2006年度	7,600,000	2,280,000	9,880,000
2007年度	11,400,000	3,420,000	14,820,000
2008年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
年度			
総計	33,600,000	10,080,000	43,680,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：グローバル化、国際移動、ジェンダー、再生産労働、アジア

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代後半以降、アジアでは香港、シンガポール等の新興工業経済を中心に、家事、育児、看護等の再生産領域における労働の担い手を、途上国からさまざまな回路をつうじて補充する動きが拡大し、このことが「国際移動の女性化」と再生産労働の国際分業をもたらしてきた。

(2) 上記の動きのなかで、再生産労働の「国際商品」化が進行し、途上国では再生産領域の海外雇用を外貨獲得手段として位置づけて、その「市場」を徐々に戦略的に追求して

きた。

(3) 日本では1980年代以降、過疎化する農村等で「アジア花嫁」を導入する動きが生まれるとともに、性産業において「興行」ビザを用いての女性移住者の大量導入が進んだが、家事労働者の導入はほとんど見られないまま推移した。他方、2000年代に入ると、介護労働力の逼迫を背景として経済連携協定をつうじた看護師、介護福祉士候補生の導入が検討されるようになった。

2. 研究の目的

上記のような再生産労働の国際移転は、生

産領域（一般商品、資本、貨幣、情報）を中心とする従来のグローバル化研究では捨象されてきた問題群であり、グローバル化のジェンダー分析においてきわめて重要な課題といえる。本研究ではこのような問題意識から、新たに「再生産領域のグローバル化」という問題を立て、具体的には以下の3点の解明と検討を研究目的とした。

- (1) 東・東南アジアにおける再生産労働の国際移転の異なるパターンとジェンダー再配置との関連の解明、および日本における再生産労働の国際移転、とりわけ高齢化を背景とした介護労働力の移転の特徴の把握。
- (2) 家族／世帯の再生産危機への対処としての越境的世帯保持の広がりや国家との関係の把握。
- (3) 女性移住者自身の再生産と権利保障をめぐる課題群の把握。

またこの研究分野における国内外の研究者との交流とネットワーク形成も本研究の目的とした。

3. 研究の方法

(1)調査対象地 再生産労働の国際移転に関連する主要受け入れ社会として、香港、シンガポール、台湾、韓国、日本のほか、フィリピン人移住介護労働者の受け入れ先として先駆的な重要性をもつカナダを主な調査対象地とした。また、送り出し社会として、フィリピンとインドネシアにおいて調査を実施した。

(2)調査方法

①現地調査 社会学、経済学、人口研究などを専門とする学際的チームを編成し、受け入れ社会と送り出し社会の双方を10日から2週間程度訪問して、関連省庁・政府機関、NGO・組合等の市民団体、職業関連団体・教育機関、仲介業者等、大学等研究機関に対してインタビュー調査を行った。ただし、カナダやその他補充調査にかんしてはチームではなく単独調査を実施した。また、香港とフィリピンにかんしては、本研究に先行して進めた共同研究（お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」）で収集したデータも参照した。インタビュー調査にあたっては、現地研究者の協力を得て対象者の選定を行った。

②このほか文献、統計、法令等の一次資料の収集を行った。

4. 研究成果

調査研究の結果、次のような知見を得た。
(1) 再生産労働の国際移転を、受け入れ側の視点から分類した場合には、以下のようなパターンが見いだされる。

- ① 富裕層の地位の誇示としての住み込み移住家事労働者の雇用（典型的にはサウジアラビアなど、湾岸産油諸国）
- ② 性的サービスの「国際商品」化とその提供者としての女性移住者の雇用（日本…）
- ③ 産業再編成下でジェンダー再配置の結果、拡大する共働き新中間層世帯の再生産労働の補填となる住み込み家事労働者の雇用（香港、シンガポール、台湾等）
- ④ 結婚難に瀕する地域、階層の男性による国際結婚、とくに商業的斡旋による結婚移民（日本、韓国、台湾等）
- ⑤ 人口の急速な高齢化を背景として、家族内介護を補填するための（ア）移住介護労働者の雇用（③と重なる）、そして（イ）結婚移民（④と重なる）
- ⑥ 人口の急速な高齢化（そして介護の外部化）を背景とし、介護労働力の確保が困難ななかでの施設における移住介護労働者の雇用（台湾、シンガポール、日本）

送り出し側のフィリピンやインドネシアの視点から捉えた場合、再生産労働の国際移転は有望な海外雇用「市場」を構成するが、住み込み家事・介護労働者の場合、「不熟練」労働とみなされ、賃金不払い、虐待等の人権侵害が多いため、より「技能労働」とみなされる介護労働への期待は大きい。

(2) 上記①～⑥に示される1990年代以降のアジア地域における再生産労働の国際分業と「国際商品」化は、受け入れと送り出しの双方の政府による政策の外に、途上国女性を移住労働の回路（「グローバル・サーキット」）に乗せることで利潤を創出する巨大な移住産業によって推進されてきた。それは途上国の「生き残りの女性化」（サッセン）という傾向を生み出してきた。日本の場合、1982年の改定入管法以降、2005年2月の「興行」ビザ上陸基準の厳格化までの期間、日本とフィリピンのあいだで形成されてきた日本の性労働への移動回路が重要な事例として挙げられる。

本研究では、現地調査の過程で香港と台湾で働くインドネシア出身移住家事・介護労働者がどのようにして香港入境にいたり、出国の際に前借金を負わされ、労働過程における自律性を奪われるのか、越境の回路をある程度は捉えることができた。移住労働の回路は、送り出し側、受け入れ側がどこかによって相対的に異なり、その様態は一様ではないが、これを受け入れの側だけでなく、送り出し側で

の状況を含めて包括的に捉えることが、女性移住者の権利保障の点で不可欠である。

同様のことは、結婚移民についても指摘できる。結婚移民の商業的斡旋業の移住回路は、たとえばベトナムから台湾へ向かうそれが、のちにベトナムから韓国へ向かう回路へと拡大するなど、地域レベルの水準で独自の伸張ぶりを見せている。

(3) 再生産労働の国際移転は、受け入れと送り出しの両側において、越境的世帯保持 (transnational householding) がなされていることを意味する。(1)で見た6つのパターンのうち、①を除くと、いずれも受け入れ社会におけるジェンダー再配置や人口動態の変化がもたらす再生産危機に対して、世帯が越境的に再生産労働を補填することで対処しようとすることでもたらされる。特に③のケースは、新興工業諸国・経済が政策的に支援し、事実上、高学歴共稼ぎ中間層世帯の再生産を補助する性格が強い。当初、家事・育児に重点があったが、高齢化の問題が新たに加わるようになって、⑤と⑥が加わって、対象となる階層も広がり帯びるようになっている。

また、④について述べれば、韓国で2000年代前半に急激に増加した商業的斡旋による国際結婚と結婚移民女性の存在は、家族の水準での再生産戦略が、「純血主義」や「単一民族思想」が根強い韓国の国民の再生産とズレを生じ、その結果、「多文化家族支援法」(2008年9月施行)が制定されるにいたっている。同法はあらゆる国際結婚家族ではなく、基本的には韓国男性と外国人女性の家族形成を支援する、同化推進のための法律となっている。このように、移住労働や結婚移民をめぐる移住産業の拡大と国家の関係を注意深く分析していく必要がある。

(4) 高齢者介護という点では、アジアでは⑤が主流と見られるなかで、日本の経済連携協定による看護師、介護福祉士候補生の導入は、施設介護に限定した⑥の形態を取る点で独特の位置を占める。施設介護労働者の補填は、シンガポールや台湾でも見られる現象ではあるが、日本の場合はさらに、斡旋や初期訓練が政府の公的機関によって独占される点が特徴的である。しかしながら、実際には受け入れ施設の側での研修・訓練のコストが高く、国家試験を課せられるなどの候補生の側の負担も大きいことから、政府対政府 (G-to-G) の回路がこのまま維持できない可能性もある。

(5) アジア地域における再生産労働の国際移転が開始した1970年代半ばから数えて、30年以上が経過するなかで、女性移住家事・

介護労働者への支援組織が受け入れ社会のなかで徐々に形成されつつある。もっとも活発で組織力もあるのは香港であるが、香港社会においても、ジェンダー平等政策は依然として香港人女性を対象とし、女性移住者の人権保障は捨象されがちである。北京女性会議以降のジェンダー主流化政策のなかにも、女性移住者の問題が、「同化」の視点からでなく、女性の人権保障の観点から包摂される必要がある。日本の移民政策はこの点で多くの課題を有するが、改定DV防止法のように女性の人権を前面に出した事例も数少ないが存在する。その一方で、日本では、台湾や韓国に比べても、女性移住者支援の施策がきわめて少なく、このため彼女たちの就労機会が制限され、一部では窮乏化が著しい。女性移住者が孤立しないようなネットワーク作りが、ジェンダー平等政策の一環として位置づけられることはきわめて重要だろう。

なお、2007年12月8日～9日には国際シンポジウム「再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——」(一橋大学)で開催し、シンガポール、台湾、韓国、米国から海外の研究者を招いて、研究交流を行った。本シンポジウムには延べ160名の参加者を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計22件)

- ① 安里和晃、「『家族化政策』と人の国際移動」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』(国際移動とジェンダー研究会編、報告書)、135-151頁、2009年、査読無
- ② 伊藤るり、「再生産労働の国際移転で問われる日本のジェンダー・バイアス」、『都市問題』、100巻、75-82頁、2009年、査読無
- ③ 伊藤るり、「再生産労働の国際移転における越境的世帯保持、国家、女性移住者——入れ子型ヒエラルキーの弛緩とグローバル・サーキットとの関連で——」、『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』(国際移動とジェンダー研究会編、報告書)、3-15頁、2009年、査読無
- ④ イシカワ・エウニセ・アケミ、「在日日系ブラジル人ヘルパー——経済不況により工場から介護労働へ」、『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』(国際移動とジェンダー研究会編、報告書)、175-186頁、2009年、査読無

- ⑤ 稲葉奈々子、「フィリピン人移住女性の軌跡——日本における底辺層の形成をめぐる問題——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、121-131 頁、2009 年、査読無
- ⑥ 大石奈々、「高齢者と移民政策——カナダにおける住み込みケア労働者プログラム（LCP）の事例から——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、187-198 頁、2009 年、査読無
- ⑦ 小ヶ谷千穂、「再生産領域のグローバル化と送り出し社会——フィリピン国内のケアの担い手の配置について——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、16-29 頁、2009 年、査読無
- ⑧ 定松文、「日本の介護福祉と外国人ケア労働者の位置づけ」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、152-162 頁、2009 年、査読無
- ⑨ 徐阿貴、「韓国における結婚移住女性の社会統合に関する一考察——文解教育運動における取り組みから——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、93-105 頁、2009 年、査読無
- ⑩ 澤田佳世、「韓国における〈国民〉の再生産とグローバル化する〈家族〉の再国民化——少子化と国際結婚をめぐる政策に注目して——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、79-92 頁、2009 年、査読無
- ⑪ 大橋史恵、「市場経済化前夜における〈貯水池〉としての女性——80 年代婦女連の活動に見るジェンダー体制の再編——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、49-62 頁、2009 年、査読無
- ⑫ 呉泰成、「移民政策のなかのエスニック移民——韓国における中国朝鮮族の就労と結婚を中心に——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、65-78 頁、2009 年、査読無
- ⑬ 平野恵子、「インドネシアの海外雇用政策——〈移住労働の女性化〉を中心に——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、30-48 頁、2009 年、査読無
- ⑭ 吉岡なみ子、「日本で就労する外国人介護員の現状——特別養護老人ホームに就労するフィリピン人介護員への聞き取りから——」『アジアにおける再生産領域のグローバル化とジェンダー再配置』（国際移動とジェンダー研究会編、報告書）、163-174 頁、2009 年、査読無
- ⑮ 足立眞理子、「蝶つがいを外せ——グローバルな源蓄と再生産の政治」『現代思想』8月号、166-171、2008、査読無
- ⑯ 足立眞理子、「再生産取引と介護保険」『再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——』（科研費補助金基盤研究 A 中間報告書）、302-310 頁、2008 年、査読無。
- ⑰ 伊藤るり、「日本の移民政策と女性移住者にとっての市民権——変革と統合という二重の課題——」、『再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——』（科研費補助金基盤研究 A 中間報告書）、5-25 頁、2008 年、査読無。
- ⑱ 定松文、「老人介護施設における『介護』の意味と外国人介護士への期待の醸成」、『再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——』（科研費補助金基盤研究 A 中間報告書）、283-291 頁、2008 年、査読無。
- ⑲ 澤田佳世、「『男性化』する出生力と国際結婚——台湾における再生産連鎖とそのジェンダー的含意——」『再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——』（科研費補助金基盤研究 A 中間報告書）、46-53 頁、2008 年、査読無。
- ⑳ OGAYA, Chiho, “Domestic Workers Rights Movements in Asia: Do Global Care Chains Make a New Sphere for Advocacy?”, 『再生産領域のグローバル化とアジア——移住者、家族、国家、資本——』（科研費補助金基盤研究 A 中間報告書）、89-98 頁、2008 年、査読無。
- ㉑ OISHI, Nana, “Population Aging and Migration: Migrant Workers in Elder Care in Canada,” *The Journal of Social Science*, International Christian University, No.65, pp.103-122, 2008, 査読有。
- ㉒ OISHI, Nana, “Family without Borders? Asian Women in Migration and the Transformation of Family Life,” *Asian Journal of Women’s Studies*, Vol. 14, No.4, pp.54-79, 2008,

査読有。

〔学会発表〕(計 10 件)

- ① ITO, Ruri, “The Quandary of Elder Care in Japan: A Shift from (National) Female Labor to Migrant (Female) Labor?”, International Conference on “The Embodied Experiences of Globalization”, August 15, 2008, University of Melbourne, Australia.
- ② OISHI, Nana, “Family without Borders? Asian Women in Migration and the Transformation of Family Life,” International Symposium on “Asian Women in Migration & Transformation of Family Life,” August 21, 2008, Ewha Womans University, Korea.
- ③ OGAYA, Chiho, “Migration and the ‘Family’ Challenged: Japanese Filipino Children and Their Mothers’ Movement,” International Symposium on “Asian Women in Migration & Transformation of Family Life,” August 21, 2008, Ewha Womans University, Korea.
- ④ 小ヶ谷千穂、「送り出し国フィリピンの戦略——海外労働者の『権利保護』と『技能』の関係をめぐって——」比較政治学会研究大会共通論題「移民と国内政治の変容」、2008年6月22日、慶應義塾大学。
- ⑤ 安里和晃、「高齢者介護における外国人労働者の位置づけ——アジア諸国の事例から——」日本学術会議・福祉社会学会共催公開シンポジウム「介護労働のグローバル化と介護の社会化」2008年6月8日、上智大学。
- ⑥ 安里和晃、「外国人介護労働者に対する雇用主の評価——台湾における施設介護の事例から——」フェミニスト経済学日本フォーラム、2008年4月19日、滋賀大学。
- ⑦ ITO Ruri, “Internationalizing Care Labor: Immigration, Elderly Care and Gender in Japan.” Conference paper prepared for the International Symposium on “Gender at the Heart of Globalization,” Panel on “Free Trade Zones and the Globalization of Care”, March 21-23 2007, CNRS-Genre, Travail, Mobilités, Paris.
- ⑧ 足立真理子、「再生産領域のグローバル化と householding」国際ジェンダー学会、全体シンポジウム「ケア労働とグローバル化とグローバリゼーション」、2006年9月9日、国立女性教育会館。

- ⑨ 小ヶ谷千穂、「取引される“ケア”とその周辺——家事・介護労働者の送り出し国家戦略とフィリピンの家族——」国際ジェンダー学会、全体シンポジウム「ケア労働とグローバル化とグローバリゼーション」、2006年9月9日、国立女性教育会館。
- ⑩ 伊藤るり、「ケア労働と二極化する社会の『ジェンダー平等』——香港の事例を中心に——」国際ジェンダー学会、全体シンポジウム「ケア労働とグローバル化とグローバリゼーション」、2006年9月9日、国立女性教育会館。

〔その他〕

ウェブページ

http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/projects.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 るり (ITO RURI)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：80184703

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

足立真理子 (ADACHI MARIKO)
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：10347479
大石 奈々 (OISHI NANA)
国際基督教大学・教養学部・准教授
研究者番号：70384005
小ヶ谷 千穂 (OGAYA CHIHO)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：00401688
稲葉 奈々子 (INABA NANAKO)
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号：40302335
イシカワ エウニセ・アケミ (ISHIKAWA EUNICE AKEMI)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・准教授
研究者番号：60331170
定松 文 (SADAMATSU AYA)
恵泉女学園大学・人間社会科学部・准教授
研究者番号：40282892
澤田 佳世 (SAWADA KAYO)
沖縄国際大学・総合文化学部・准教授
研究者番号：60454998
安里 和晃 (ASATO WAKO)
京都大学・文学研究科・特定准教授
研究者番号：00465957

徐 阿貴 (SEO AKWI)
お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究
所・研究員
研究者番号：90447566

(4) 研究協力者

呉 泰成 (OH TAESUNG)
一橋大学・大学院博士後期課程
大橋 史恵 (HASHI FUMIE)
日本学術振興会・特別研究員 (DC)
越智 方美 (OCHI MASAMI)
お茶の水女子大学・大学院博士後期課程
小林淳子 (KOBAYASHI JUNKO)
お茶の水女子大学・大学院博士後期課程
平野 恵子 (HIRANO KEIKO)
お茶の水女子大学・大学院博士後期課程
吉岡なみ子 (YOSHIOKA NAMIKO)
お茶の水女子大学・大学院博士後期課程